

中1国語 出題のねらいと対策

1 漢字の読み書き 70.6%

ねらい：漢字の読み方と書き方についての知識を問う。

分析と対策：「枚挙にいとまがない」とは、たくさんありすぎて数えきれない様子を意味します。このように、漢字の読み書きだけでなく、意味も覚えるようにするとよいでしょう。

2 文節相互の関係 50.0%

ねらい：文節相互の関係が正しくとらえられているかを問う。

分析と対策：文を構成する文節の役割と、その相互の関係について確認する問題です。主語・述語・修飾語という概念は小学校で既出ですが、ここでは並立や補助など、さらに一歩進んだ相互関係まで出題しています。小学校の復習をかねて、しっかり理解するようにしてください。「下見して きた」の「きた」と、「学校に きた」の「きた」との意味・働きの違いを考え、補助の働きとはどういうものかを理解してください。並立の概念をしっかり理解してください。並立の文節どうしであれば入れ換えが可能であるということを押さえましょう。

3 詩の鑑賞 54.5%

ねらい：表現技法など、詩を味わう上で必要な知識を問い、作者の気持ちがちんととらえられているかを問う。

分析と対策：散文に比べて、少ないことばで表現される詩の読み取りでは、一つ一つのことばに対して、より細かな注意が必要とされます。選択肢のそれぞれの表現技法について、しっかり

と理解しておいてください。選択肢以外の主な表現技法として「対句」「反復法」などについても学習しておくといよいでしょう。

4 文学的文章読解 81.3%

ねらい：文中の人物の会話や様子から読み取れる心情の把握がしっかりとできているかを問う。

分析と対策：この文章では、父親が、自分の買ってきたものをチサに与え、「母ちゃんどこへ」行こうとチサを誘っている場面が描かれています。慣用句の表現などに注意しながら場面・心情を読み取りましょう。また、チサに着せる白い服や、チサの言葉に対する父親の言葉や反応を考えると、あながちチサの「(母親のいる)お星さまへ？」が、父親の心情からはずれてはいないのかもしれないということを押さえましょう。

5 説明的文章読解 71.3%

ねらい：指示語の指示内容の把握など、説明的文章の読解の基礎がしっかりと身に付いているかを問う。

分析と対策：本文では、ネズミを用いた実験で、記憶の形成過程を明らかにしています。それほど長い文章ではないので、繰り返し読み込んで本文についての理解を深めてください。各段落で述べられている内容が明確で、論理的なつながりもしっかりしており、前から読んでいくことで結論に至る流れになっていることを押さえましょう。

全体の平均点は67.8点です。大問別テーマのうしろの数字は、全体の大問別正答率です。個人成績表を見ながら、不得意テーマに対する今後の学習の方針を見つけましょう。